

新型コロナウイルス感染症に係る支援者リスト登録の皆様への調査結果

I 調査目的

長野県ナースセンターの新型コロナウイルス感染症に係る支援者リストに登録した看護職の業務への支援の実態・就業状況等を把握し、今後の支援体制や就業を希望する看護職への再就職の促進を図る

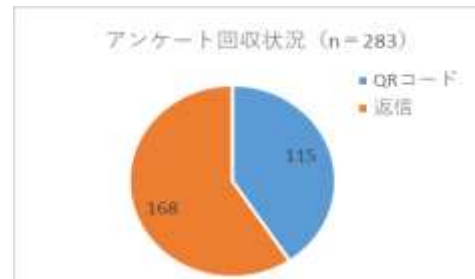
II 対象者

2020年4月から2022年4月末までの新型コロナウイルス感染症に係る支援者リストへの登録者のうち、住所の記載のある者733名に対し、無記名にて調査用紙またはQRコードによる自記式調査を実施

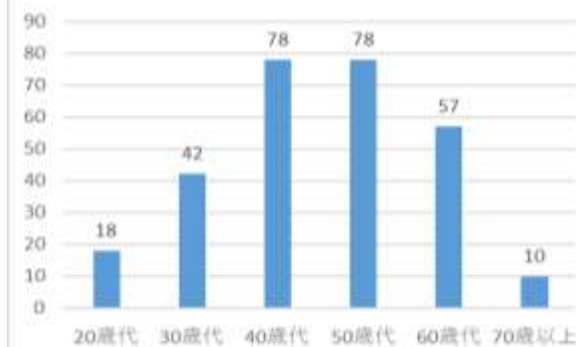
III 結果

1. アンケート回答状況 (郵送総数733通)

回答手段	実数	割合	733名中の割合
QRコード	115	40.6%	15.7%
返信	168	59.4%	22.9%
合計	283	100%	38.6%

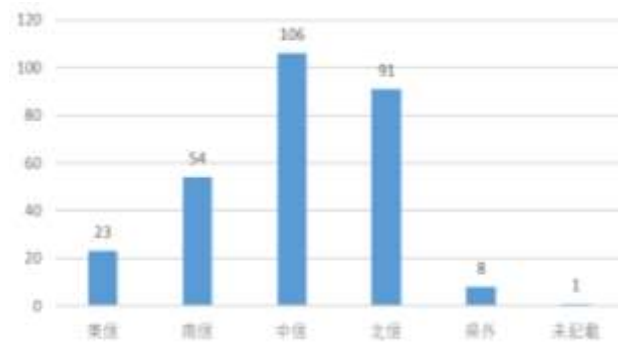


2. 年齢構成 (n=283)



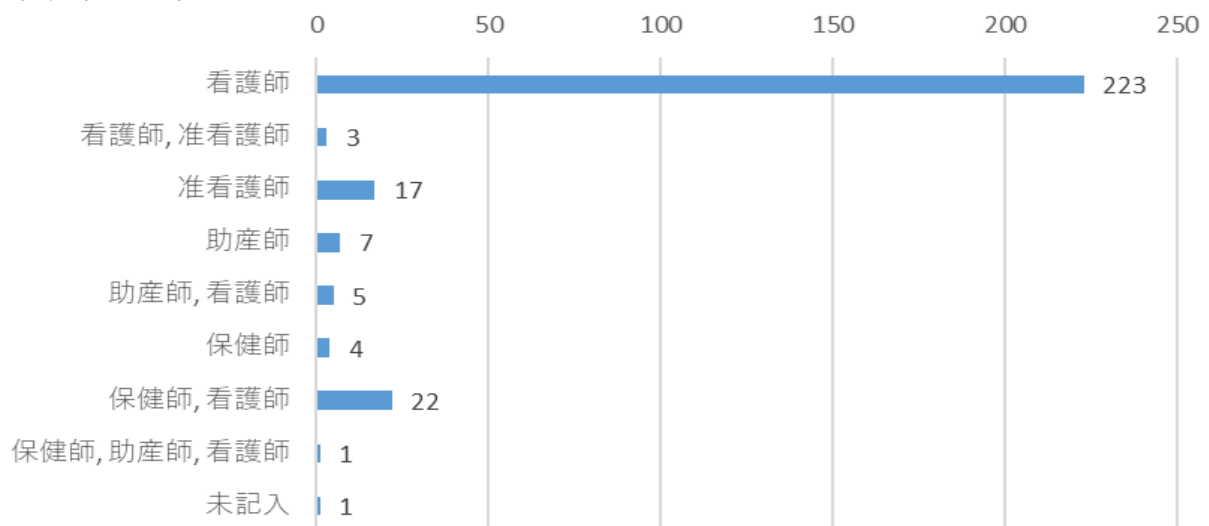
年齢構成は、40代50代をピークにきれいな放物線を描いた。

3. 居住地 (n=283)



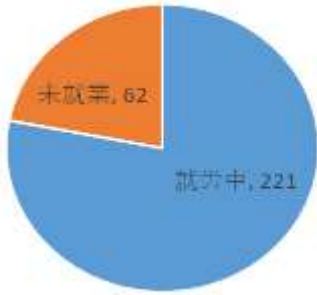
居住地は、中信地区が最も多く106名(37.5%)、次いで北信地区91名(32.2%)、南信地区54名(19.1%)、東信地区23名(8.1%)であった。

4. 職種 (n=283)



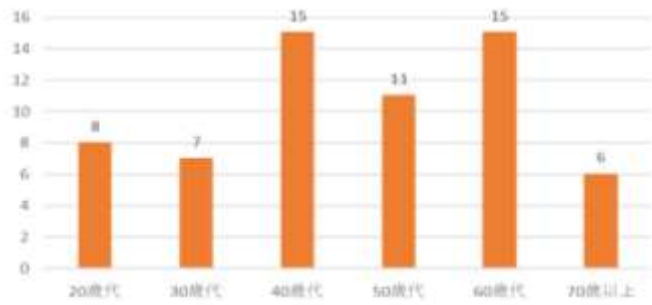
職種においては、看護師が最も多く226名(79.9%)次いで保健師資格27名(9.5%)、准看護師資格17名(6.0%)、助産師資格13名(4.6%)であった。

5.現在の就労状況 (n=283)



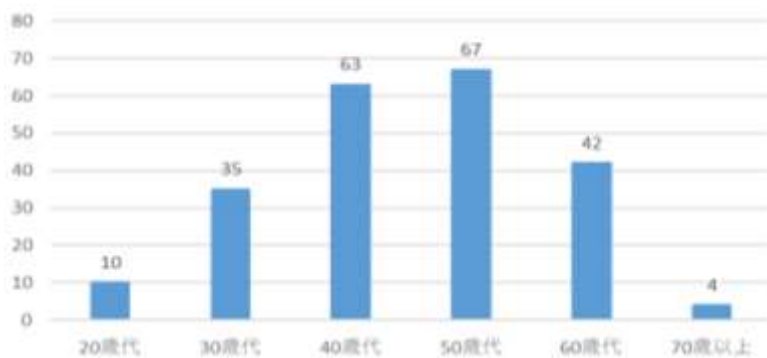
現在の就労状況で就労中は、221名(78.1%)であり、未就労の方は、62名(21.9%)であった。

5-① 未就労者の年齢構成 (n=62)



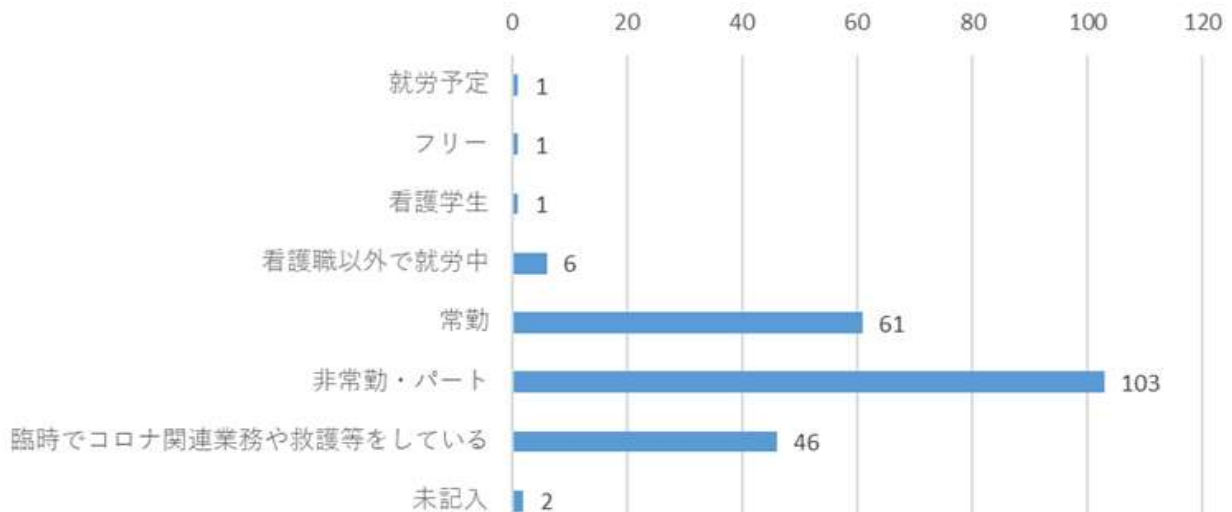
未就労者62名の年齢構成は、40歳代と60歳代が最も多く15名(24.2%)で、次いで50歳代11名(17.4%)であった。

5-② 就労者の年齢分布 (n=221)



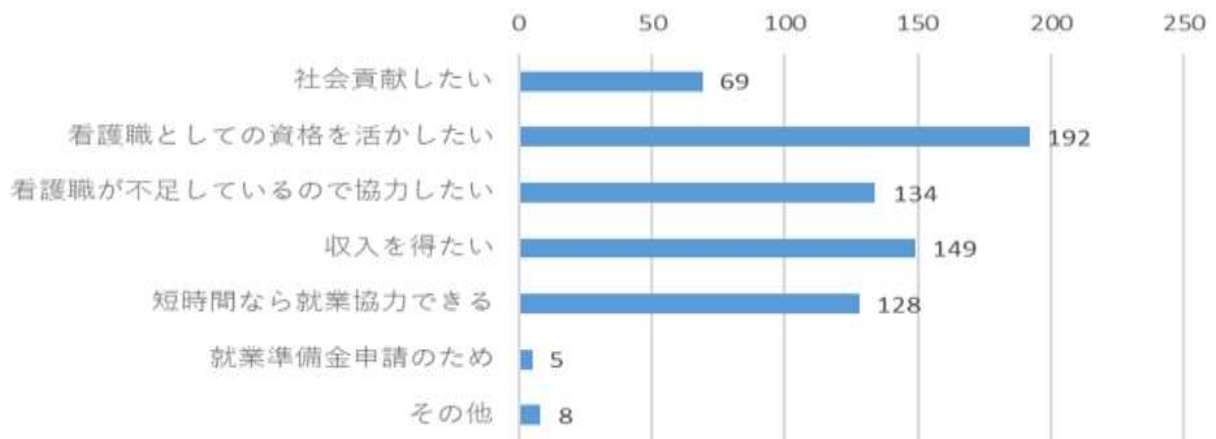
就労者221名の年齢構成は、50歳代 67名(30.3%)をピークに放物線を描いた。次いで、40歳代63名(28.5%)、60歳代42名(19.0%)、30歳代35名(15.8%)となった。

5-③ 就労の雇用形態 (n=221)



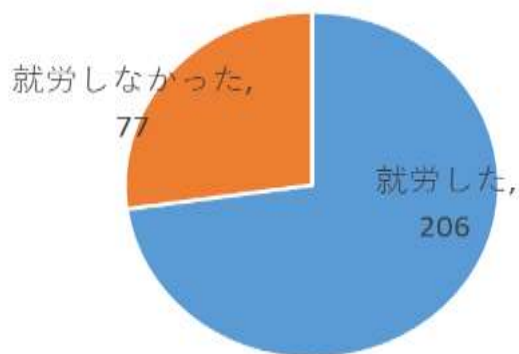
就労者221名の雇用形態については、非常勤・パートが最も多く103名(46.6%)で、次いで常勤61名(27.6%)、臨時でコロナ関連業務や救護等を行っている者46名(20.8%)であった。

6. コロナ関連支援者リストへ登録した理由 (複数回答 n=283)



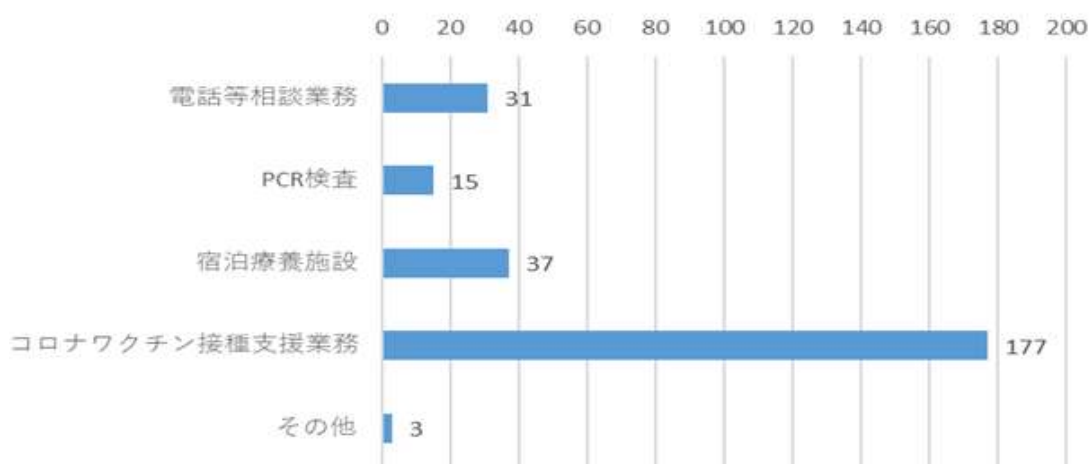
リストへの登録理由で最も多いものは、看護職としての資格を活かしたいが192名(67.8%)次いで収入を得たい149名(52.7%)、看護職が不足しているので協力したい134名(47.3%)、短時間なら就業協力できる128名(45.2%)であった。

7. 実際のコロナ関連業務への就労状況 (n=283)



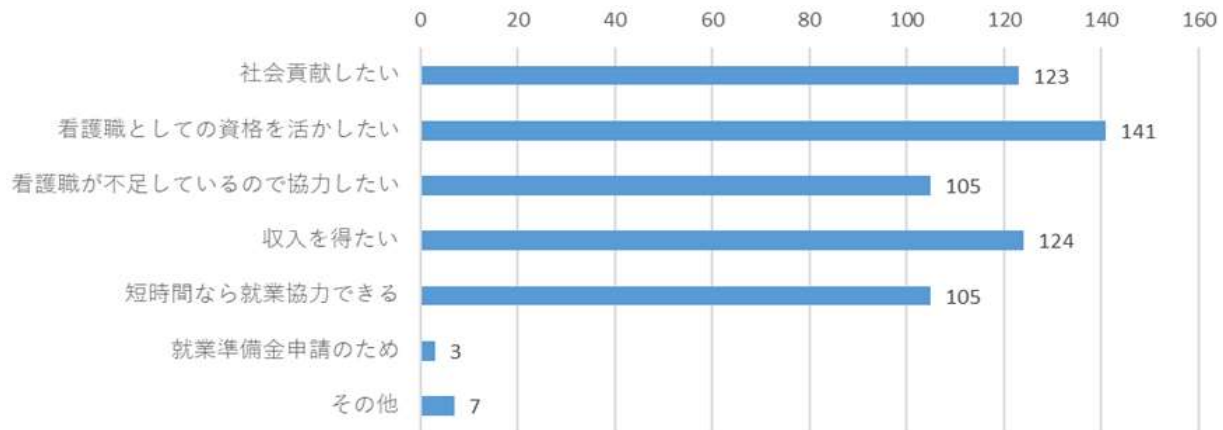
実際に就労した者は206名(72.8%)であり、就労できなかった者は77名(27.2%)であった。

8. 従事した仕事内容 (n=206)

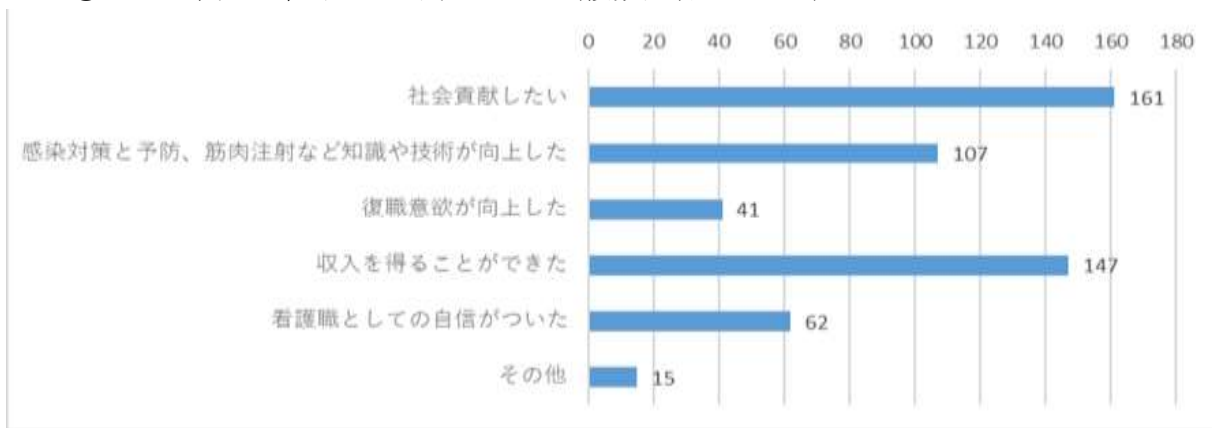


従事した仕事内容で最も多かったのは、コロナワクチン接種支援業務で177名(85.9%)であった。次いで宿泊療養支援37名(18.0%)、電話等相談業務31名、PCR検査15名であった。

9-① コロナ関連の仕事に就いた方の登録理由(複数回答 n=206)

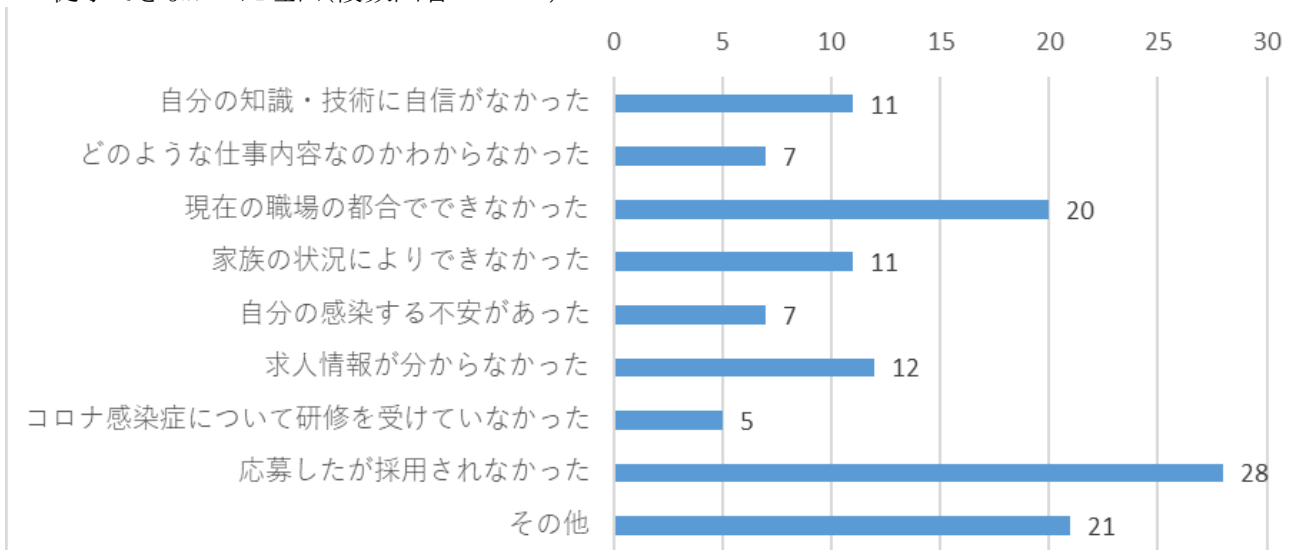


9-② コロナ関連の仕事をして良かったこと(複数回答 n=206)



コロナ関連の仕事を行った206名の登録時の理由と仕事をして良かったことの相違については、社会貢献ができたが123名から161名と38名(18.4%)増加しており、収入については124名から147名であり23名(11.2%)増加した。

10. 従事できなかった理由(複数回答 n=99)



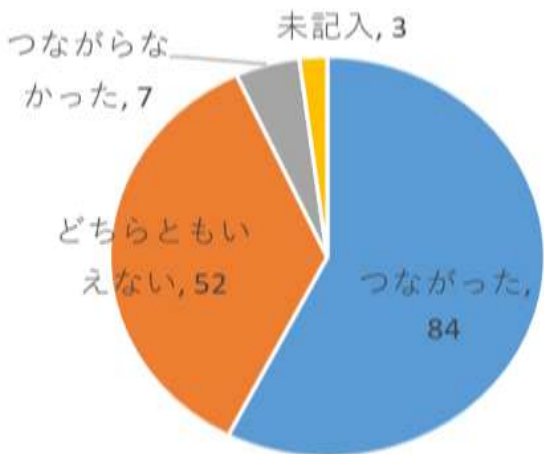
実際就労できなかった者は77名であったが、希望したができなかったものを含め、99名が回答した。最も多かったのは、応募したが採用されなかったが28名(28.3%)、次いで現在の職場の都合でできなかった20名(20.2%)、求人情報が分からなかった12名(12.1%)、家族の状況によりできなかった・自分の知識・技術に自信がなかったがそれぞれ11名(11.1%)であった。

11.再就業・転職を考えている人数(n=283)



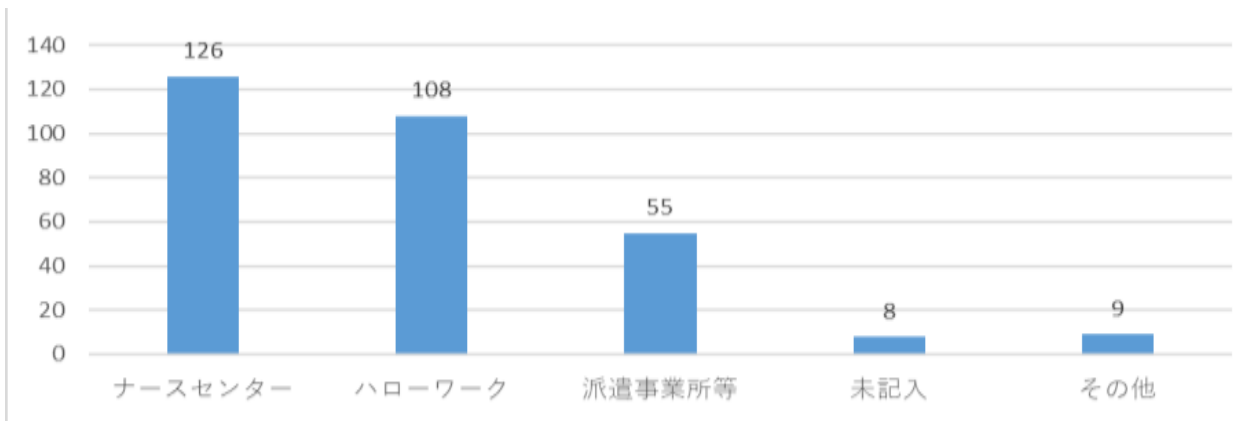
現在再就業・転職を希望する者は、146名(51.6%)であり、半数以上が希望していた。希望していない者は、106名(37.5%)であった。未記入者は31名(11.0%)であった。

12.コロナ禍における看護職の重要性は就労意欲へつながったか(n=146)



再就労・転職希望者のなかで、今回のコロナ禍における看護職の重要性が就労意欲につながったと回答した者は、84名(57.5%) どちらともいえないと解答した者が52名(35.6%)、つながらなかった者は7名(4.8%)であった。

13.就業先を見つけるために利用したい機関(複数回答 n=146)



その他の内容 友人・知人の紹介:5名 など

就業先を見つけるために最も利用したいと考えている機関は、ナースセンターが126名(86.3%)、次いでハローワーク108名(74.0%)、派遣事業所等55名(37.7%)であった。

14. 就業するにあたり支障となっていること(複数回答 n=146)

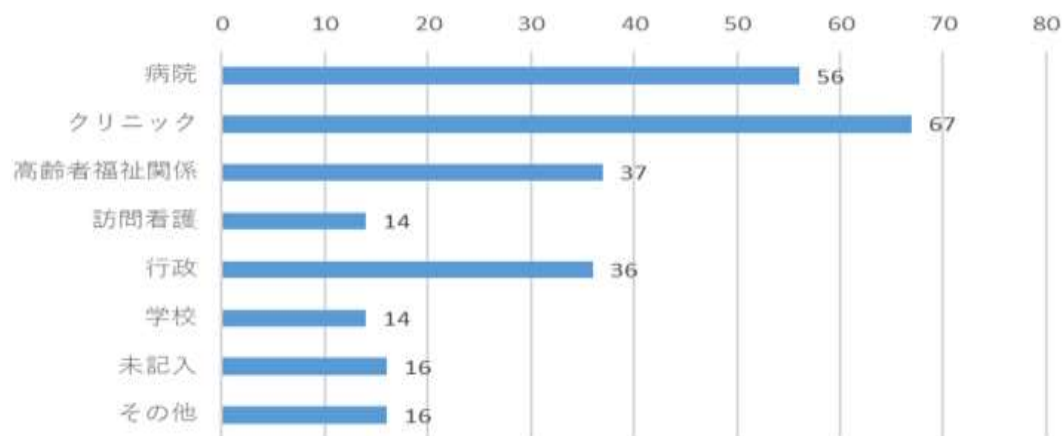


その他の内容

自分の条件と合う職が見つけられない:3名 など

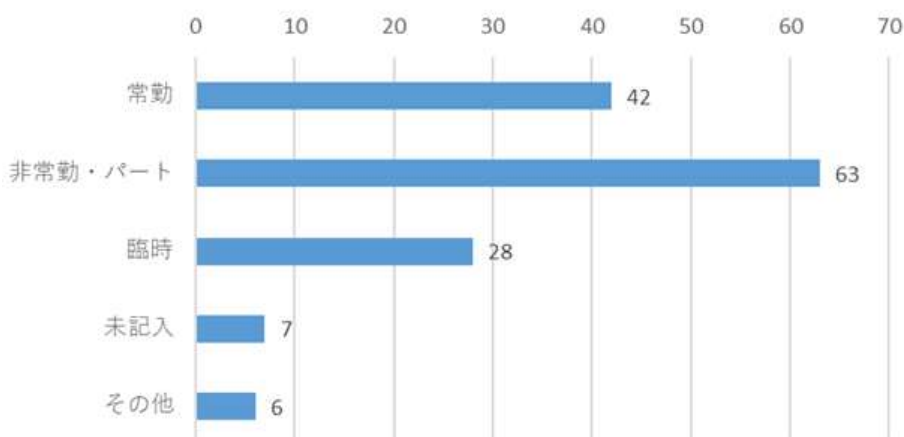
就労するうえで支障となっていることについては、家族等自分を取り巻く環境調整が難しいが59名(40.4%)、自分の知識・技術に自信がないが56名(38.4%)、自分の体力・気力に自信がないが55名(37.7%)、年齢に不安があるが45名(30.8%)、求人情報がうまく集められないが39名(26.7%)となった。

15. 希望する就業先(複数回答 n=146)



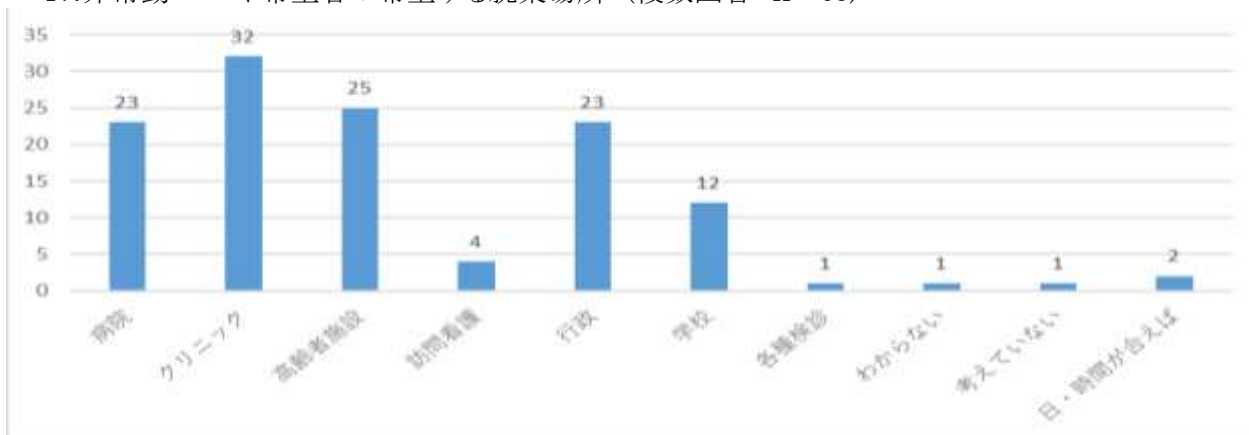
希望する就業先については、クリニックが最も多く67名(45.9%)、次いで病院56名(38.4%)、高齢者福祉関係37名(25.3%)、行政36名(24.7%)、訪問看護・学校は各14名(9.6%)の順であった。

16. 希望する雇用形態(n=146)



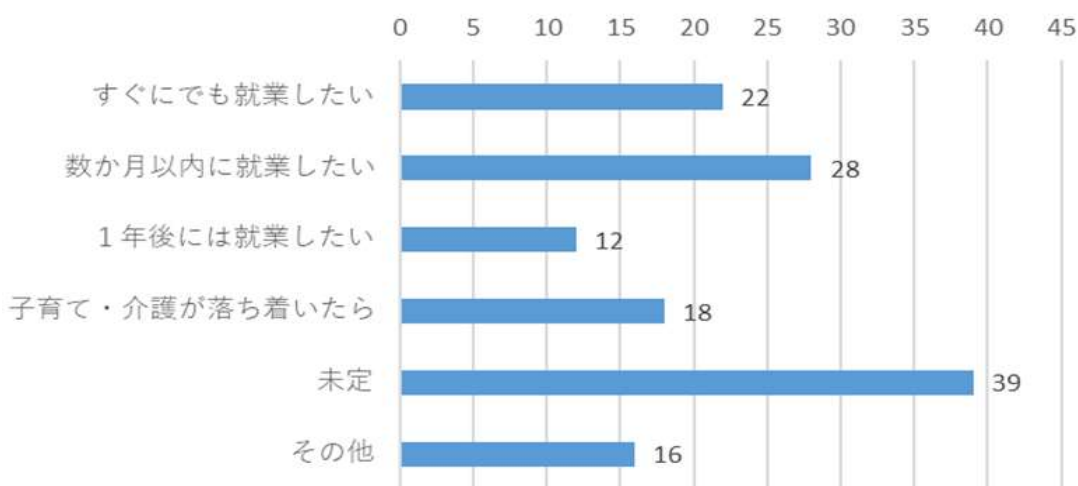
希望する雇用形態で最も多かったのは、非常勤・パートで63名(43.2%)であった。次いで常勤42名(28.8%)、臨時28名(19.2%)の順であった。

17.非常勤・パート希望者の希望する就業場所（複数回答 n=63）



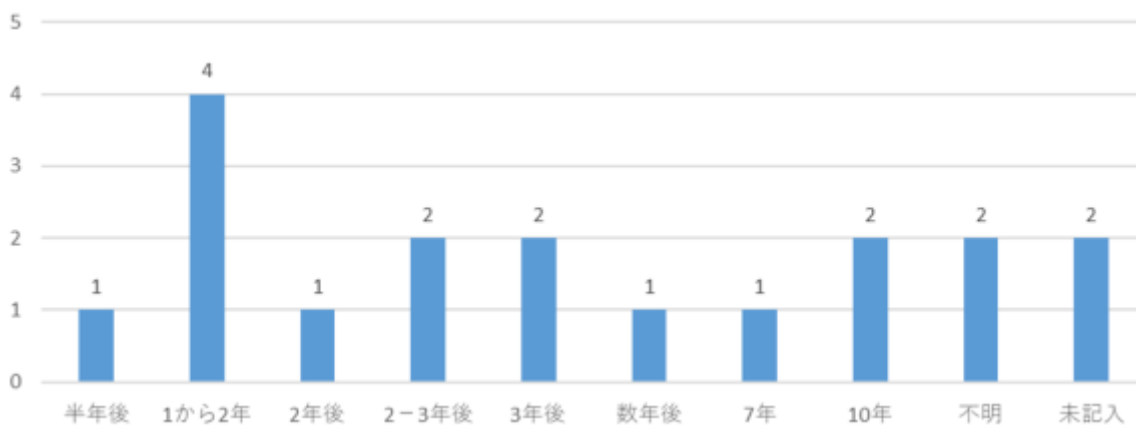
非常勤・パート勤務を希望する方の就業場所は、クリニックが最も多く32名(50.8%)で、次いで高齢者施設25名(39.7%)、病院・行政が23名(36.5%)と続く。

18.就業を希望する時期(n=146)



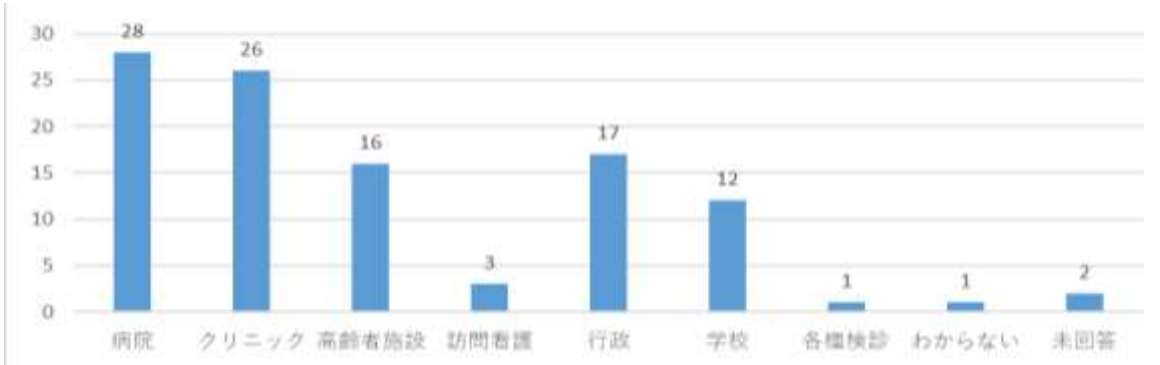
就業を希望する時期については、未定が最も多く39名(26.7%)、次いで数か月後に就業したいが28名(19.2%)、すぐにでも就業したいが22名(15.1%)の順となった。

19.「子育てや介護が落ち着いたら」の時期(n=18)



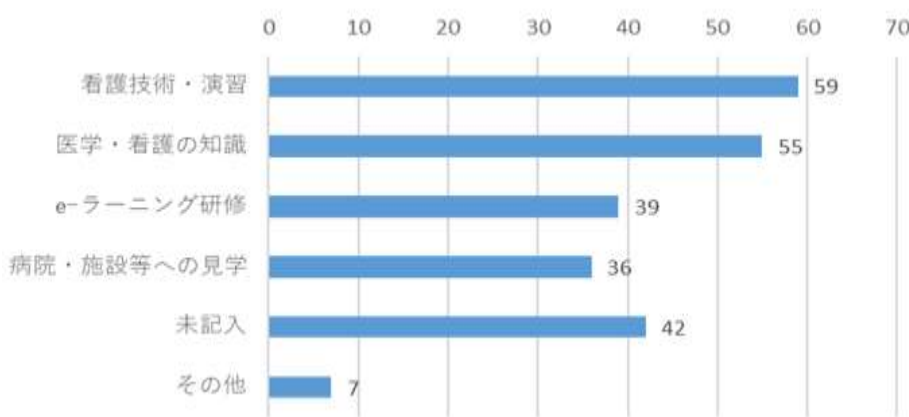
子育てや介護が落ち着く時期については、1から2年が最も多いが、ばらつきがあった。

20.「直ぐに」または「数か月後以内」の就業希望者の就業希望場所(複数回答n=50)



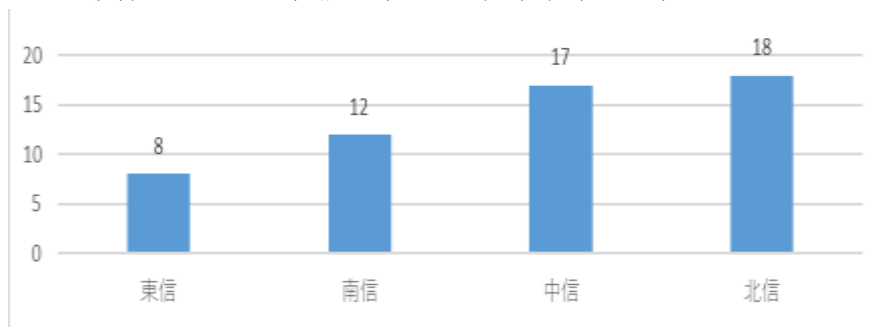
すぐにまたは数か月以内の就業希望者の就業先は、病院が最も多く28名(56%)、次いでクリニックが26名(52%)、行政17名(34%)の順であった。

21.就業をするにあたり、希望する研修は何ですか。(複数回答 n=146)



就業するにあたり、希望する研修は、看護技術・演習が最も多く59名(40.4%)、次いで医学・看護の知識55名(37.7%)、eラーニング39名(26.7%)であった。

22.就業についての相談を希望した記名者(n=55)



記名のあった方については、各地区担当により支援を実施中

IV 総合

733名を対象に調査を行い、283名(回収率38.6%)より回答があった。
 年齢構成は、40歳代・50歳代が最も多かった。コロナ関連の仕事は206名(72.8%)が行っており、仕事内容としてはコロナワクチン接種支援業務に対応した看護職が177名(85.9%)と最も多く、次いで宿泊療養施設への支援者が37名(18.0%)電話相談業務が31名(15.0%) PCR検査への支援が15名(7.3%)であった。コロナ関連の仕事をして良かったことは、社会貢献ができたが161名(78.2%)、次いで収入を得ることができたが147名(71.4%)、感染対策と予防・筋肉内注射などの看護知識や技術が向上したが107名(51.9%)と回答した。再就業や転職を考えている方は、283名中146名(51.6%)おり、その内57.5%がコロナ関連の仕事が就労意欲につながったと感じている。しかし、就労する上で支障になっていることは家族等自分を取り巻く環境の調整が難しい、自分の知識・技術に自信がない、自分の体力・気力に自信がないなどが挙げられた。就業にあたって、ナースセンターを利用したいと考えている方が126名(86.3%)と最も多く、就業支援を希望し氏名の記載があったのは55名であった。今後の課題として、ナースセンターでは看護の知識・技術への支援を行うとともに、本人の意向を尊重し、個々に寄り添った就業相談を行い、置かれた環境の中で就労できる内容を具体的に共に考えていくことが必要であり、求人先にも多様な働き方への調整を行っていくことが必要とされる。